

『あおもり創造学』プロジェクト事業

本校は令和4年度から2年間、青森県教育委員会「持続可能な地域づくり『あおもり創造学』プロジェクト事業」の指定を受け、地域の魅力発信・地域課題解決プログラムを実施しています。

1 プランの名称

「三戸みらい創生プロジェクト」

2 学校及び地域の現状

三戸高校は定員割れの状態が続き存続の危機にある。また三戸町は青森県内の他の市町村と同様に少子高齢化が進んでいる地域である。特に人口の社会減は顕著でありその理由として地域に核となる産業がないことが挙げられる。

3 プロジェクトの具体的な目標

高校生が地域の抱える課題を主体的に見つけ出し、その解決方法を探究するだけでなく、地域社会と連携をとりながら実践的な取組をすることにより、郷土愛を深め地域の発展のために貢献する意欲を育む。

4 連携先（令和4年度）

三戸町役場まちづくり推進課・八戸学院大学地域経営学部・合同会社「南部どき」

5 令和4年度実施プログラム

『SDGs アイデアコンテスト』

持続可能な地域社会の創生するために、生徒自身がSDGsの視点から地域活性化や持続可能なまちづくりのための具体的アイデアをプランニングし、地域の関係者や専門家に対してプレゼンテーションすることで、地域社会の課題と課題解決の方法について理解を深めました。

【探究（発表）テーマ】

「二つの町のコラボレーション!!」・「三戸町の特色探究」・「アニメで地域活性化！」

「防災グッズ～安心できる生活を～」・『三戸遊園地計画！』全世代参加型で明るい未来に」

「高校生がくつろげる放課後を～地域の空き店舗をカフェに～」

「廃校をリノベーション!! ～みんなが使える憩いの場に～」

6 参考資料（新聞記事）

青森県立三戸高豊川武伸校長の2年生が、持続可能な開発目標（SDGs）の視点から地域活性化策を発表するアイデアコンテストが8月31日、同校で開かれた。生徒は魅力発信アニメの制作や廃校リノベーションなど、長く住み続けられる地域の実現に向けて柔軟な発想を披露した。

県教委の「持続可能な地域づくり『あおもり創造学』プロジェクト事業」の一環として実施。2年生31人が7班に分かれ、それぞれ違うテーマを研究した。

八戸学院大地域経営学科講師の井上丹さん、南部どき（南部町）代表社員の根市大樹さんが審査を担当。最優秀賞には、『三戸遊園地計画』を設置する「『三戸遊園地計画』全世代参加型で明るい未来に」が選ばれた。

三戸町を舞台とするアニメ制作を発表したグループでリーダーを

SDGsの視点で
地域活性化策発表

三戸
三戸高校生、アイデアコン

グループで研究したアイデアを発表する生徒（左）

務めた小川志織さん（17）は「同町出身は、地元の人口が減る中でどうしたら地域が明るくなるかを考えた。審査員のアドバイスを参考に、さらにアイデアを練りたい」と話した。

（上條哲洋）

デーリー東北新聞社（令和4年9月7日）